



宮司プレス 第四百四十六号

彦島八幡宮 宮司 ニューズ

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 令和元年 七月 十六日

◇宮司の柴田です。 例年にくらべて気温が低

く、昨日は、最高気温が、一昨日より四度も高
いようですが、たいへん凌(しの)ぎやすい、
昨今です。 特に、朝夕は、まさに、梅雨寒(つ
ゆさむ、梅雨時期に数日続く季節はずれの寒さ)

の折節(おりふし)です。 さて、昨日は、竹
の子島に鎮座する天満宮の例祭を御奉仕申し
上げました。 四月は、同じ神社で、金刀比羅

宮(ことひらぐう)の例祭なのですが、一つの
神社で二つの神社名を有(ゆう)する神社とい
うこととなります。 ちなみに、彦島には、七

神社がございます。 古(いにしえ)彦島は、
「七里七浦七恵比須(ななりななうらなえび
す)」という縁起のいい島といわれています。

島の周囲が、おおよそ「七里(二十八キロ四方)」
で、小さな入り江というべき「浦」が七つで「七
浦」、そして、恵比須神社が七社あったといわれ
ています。 現在は、地名として「浦」が残っ
ているのが、「江の浦」「福浦」、海士郷に「恵美
須神社」が、一社残っています。 今、「御朱印
帳(ごしんちよう)」を持って参拝される老若
男女(ろうにやくなんによ)の皆様が増えて

まいりました。 早速、私共も、その時流(じ
りゅう)に乗っからせていただきまして、「彦島
七社(ひこしまななしゃ)巡り」の御朱印帳ラ
リーの提案をさせて頂いております。 その七

社は、当宮の「彦島八幡宮」を皮切りに、「貴布
禰神社」、「恵美須神社」、「福浦金刀比羅宮」、
「塩釜神社」、「田の首八幡宮」、そして、「竹の
子島金刀比羅宮」の七社です。 実は、その七

社のなかにも、前述(ぜんじゆつ)の「竹の子
島天満宮」をはじめ、「貴布禰稻荷神社」「福浦
稻荷神社」がありますので、「彦島七社」をくま
なく巡拝(じゆんぱい)されますと、全部で十

社の御朱印を集めることが、可能(かのう)と
なります。 さらに、当宮に安置されている、
神祕の石である「ペトログリフ」の御朱印や巖
流島(がんしゅうじま)に鎮座する「船島神社」
の御朱印も頂けます。 縁起のいい、七ずくし
の神社巡りをされてみられたらいかがでしょ
うか。 当宮社務所(とうぐうしゃむしょ)に
は、地図とそれぞれの簡単(かんたん)な由緒
(ゆいしよ)が書かれたチラシもお配りしてい
ます。

◇さて、天満宮さらに天神信仰(てんじんしん
こう)の発祥(はつしょう)は、御存知(ごぞ
んじ)のとおり、太宰府天満宮(ださいふてん
まんぐう)です。 平安時代の前期、右大臣(う
だいじん)であった菅原道真公(すがわらのみ
ちざねこう)は、左大臣(さだいじん)藤原時

平(ふじわらのときひら)の讒言(ざんげん)
により失脚(しつきゃく)され、九州の大宰府
政庁(ださいふせいちよう)の名目的な長官(ち
ようかん)である大宰権帥(ださいのごんのそ
ち)に、左遷(させん)されました、延喜三年
(西暦九〇三年)に、大宰府の地でお亡くなり
になりました。 さらに、この大宰府の地で愛

児(あいじ、わがこ)を失われ、左遷(させん)されて、
僅(わず)か二年の短い時間の出来事で、道真
公(みちまね)は、享年(きやうねん)五十九歳(いらいっし
やい)ました。 この道真公(みちまね)を祀(まつ)る全国
に一万二千余社ある天神社(てんじんじや)の、
総本宮(そうほんぐう)的存在(そんざい)といえるのが、
前述(ぜんじゆつ)の太宰府天満宮(たさいふてんまんぐう)であります。

菅原道真公(みちまね)は、たぐい稀(まれ)な詩文(しぶん)、
文学(ぶんがく)的作品(さく品)等(とう)のこと)の才(さい)に恵(めぐ)まれ、文書
博士(もんじ)ようはかせ、詩文(しぶん)と歴史(れきし)を教授(きょうじゆ)し
た教官(きょうかん)を経て、従二位右大臣(じゆにいうだ
いじん)にまでなられた朝廷(ていてい)の重鎮(じゆうちん)
(じゆうちん)でした。 とくところが、有力(りき)氏族(しゆぞく)以外の出身
で異例(いれい)の高位高官(こういこうかん)に進(すす)まれ

たために、権門(けんもん)、官位高く権勢のある(いえがら)の藤原氏に疎(うと)まれて、権限のない大宰権帥に左遷されるといふ悲劇に見舞われました。都を去るにあたられて詠(よ)まれた「東風(こち) ふかば にほひおこせよ 梅の花 あるじなしとて 春なわすれそ」という和歌は、実に名高いものです。道真公亡き後の京の都では、凶事(きょうじ)が多発しまして、道真公の怨霊(おんりょう)と騒がれました。のちに朝廷は、道真公に、「正一位 太政大臣(だいいじょうだいいじん) という極官(こつかん、最高の官位)を追贈(ついぞう)されました。道真公は、「天満大自在天神(てんまんだいいざいてんじん)」、また、学問の神様として崇敬されるようになったのです。

◇天神信仰は、その道真公の猛々しい怨霊のなせる業、「荒魂(あらいたま)」をお慰め申し上げ、たぐい稀な詩文の才により、私共の行く手を清く正しい道のりへとお導きを願うものではないかと思ひます。昨日のお祭りは、そのような思ひを込めて御奉仕申し上げました。

◇中国の五経(ごききょう)の一つである「易経(えいききょう)」に、「終日(あした)に乾乾(けんけん)タ(ゆうべ)に惕若(てきじやく)とあります。朝に、「今日も一日頑張るぞ」と一生懸命生きる。そして、一日が終わると至らぬところを反省し、明日は今日よりも、もつと

よくしようと、前進する、これが、「終日乾乾、夕惕若」で、「朝に祈り夕べに感謝」という敬神生活ではないかと思ひます。いよいよ夏本番となりますが、田の首八幡宮、六連島八幡宮、恵比須神社、そして、当宮の夏越祭が、今月の二十一日より三十一日まで斎行(さいこう)予定です。一つ二つのお祭りをおろそかにせず、真心込めて、「終日乾乾、夕惕若」の心意気で御奉仕申し上げます。御自愛ください。

◇七月の祭典行事会議等活動予定並びに報告

▼月次祭 *七月一日、十五日

▼六連島七社祭 *七月九日

▼海上自衛隊敷設艦むろと参拝 *七月十二日

▼竹の子島天満宮例祭 *七月十五日

▼ヒコットランドマリンプーチ海開

*七月十五日

▼朝粥会 *七月二十一日

▼夏越祭

◆田の首八幡宮 *七月二十一日

◆六連島八幡宮 *七月二十五日

◆彦島八幡宮

■前夜祭 *七月二十九日

■御神幸祭 *七月三十日

■海土郷恵美須神社 *七月三十一日

▼八幡宮関係団体

◆敬神婦人会清掃奉仕作業 *七月二十一日

◆とこわか奉納グランドゴルフ大会

*七月二十一日

◆奉賛会茅の輪奉製作業 *七月二十七日

▼山口県神社庁、同下関支部関係

◆下関支部即位奉祝大会準備会議 *七月四日

◆山口県神社庁御代替特別対策委員会

◆山口県神社総代会役員会

◆山口県神社庁役員会

*七月十一日

◆山口県神社庁支部長事務局長会議

◆山口県八幡宮会総会

*七月十二日

◆山口県神社庁教化委員会 *七月十六日

◆山口県神社庁神職養成講習会

■開講式 *七月二十四日

■神社神道概説「講義(一コマ五十分)

*七月二十六日、二十七日 ※六コマ

▼教誨活動、美祿社会復帰促進センター

◆集合教誨(男子) *七月八日

◆集合教誨(女子) *七月二十九日

▼下関西ロータリークラブ

◆例会 *七月三日、十日、十七日、二十四日、三十一日

三十一日

◆理事会 *七月十日、三十一日

◆市内五R.C会長幹事会 *七月十六日

▼その他

◆倫理法人会モーニングセミナー *七月四日